

# 令和4年度高大連携活動報告

## 高大連携授業（ビジネスゲーム、12月19日）

12月20日、毎週月曜5限に行われている「ビジネスゲーム」の授業に、國學院高校の1年生44名（2クラス合計）が対面にて参加した。当授業に高校生を招待するのは初の試みであったが、無事にグループワークが中心のアクティブラーニングを高校生に体験してもらえた。

第12回となる今回の授業テーマは「マーケティングミックスを考えよう/参入領域を決めよう」であった。経営分野の専門知識を身につけた上で、大学生が選んだ業界に自分たちが新規参入するためにはどうするかを議論した。既存事業をマーケティングの観点から分析しつつ新規事業を提案するため、難易度は高いものの、大学生・高校生が積極的に意見交換をしていた姿が印象深い。

### ビジネスゲーム 第12回 新たなビジネスで市場に新規参入しよう ②マーケティングミックスを考えよう /参入領域を決めよう



今回の高大連携授業において深く印象に残っている点が1つある。それは、アクティブラーニングに慣れていないであろう高校生も取り残されることなくグループワークに取り組んでいたことである。通常の授業とは異なる高校生を交えたグループワークによって、大学生も良い刺激を受け、活発にコミュニケーションを取れていたように感じる。

#### 後記（感想）

この高大連携授業を通して、高校生が楽しそうにグループワークをし、アクティブラーニングに触れている様子を見られたことが、授業運営を行っている側として何よりの喜びであった。この機会をきっかけに、アクティブラーニングという授業のあり方を知り、この形式の授業をもっと受けたいと考えてくれる学生が増えることを願う。

國學院大學経済学部の特徴であるアクティブラーニング型授業では、座学では培うことが出来ない、対人のスキルを養うことができる。経済学部に入學する新入生には、是非そういった形式の授業を履修してもらいたい。

（経済学科 2年 若松大夏）

**配布資料あり**

**4C分析**  
顧客が企業の製品やサービスを買うプロセスを「4つの要素」に分解

4C分析	顧客が考える価値
1 Customer Value (顧客価値)	顧客が考える価値 ⇒ 製品・サービスはどのような価値(性能やニーズに合うか)があるか
2 Customer Cost (顧客にとってのコスト)	価値に対するコストが妥当か ⇒ コストには交通費や購入にかかる時間なども含まれる
3 Convenience (利便性)	購入のしやすさ ⇒ スムーズに手に入るか ※ 製品・サービス自体の使いやすさではない
4 Communication (顧客とのコミュニケーション)	顧客との接点 ⇒ どのような形で情報を手に入れられるのか (SNS、メールマガジン等)

**配布資料あり**

**ワーク②: 参入領域を決めよう**  
ビジネスプランの方向性を決めよう

■ 大学生でファシリテーター、タイムキーパーを決める(ワークごとに役割変更)

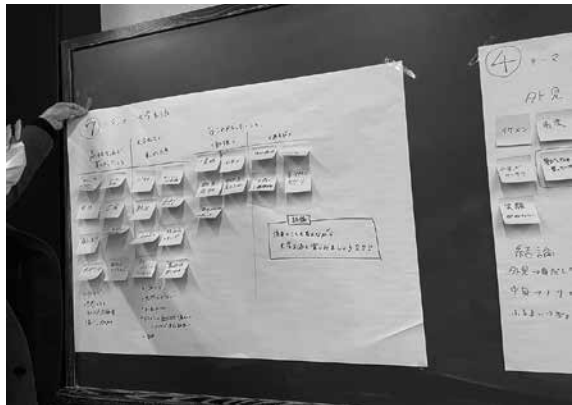
- ワーク①で共有した宿題の中から、最も魅力的なブルーオーシャンを話し合ってください。  
※それぞれ考えてきたものを掛け合わせてもOK 1. 目安: 4分
- 先ほどの4P分析・4C分析に、  
① 既存の製品/サービスの特徴(宿題の①を参考)  
② 自分たちの製品/サービスの特徴(宿題の②・③を参考)を当てはめ、シートに記入してください。  
⇒ 前回立てたKFSが4P/4Cにうまく当てはまらない場合、4P/4Cに当てはまるよう書き方を考えてみてください。  
⇒ 現時点で考えていない/曖昧なものは書き加え・具体化をしてみましょう。 2. 目安: 15~20分
- 時間が余ったら、1・2をもとに、自分たちの提案する製品/サービスの具体化の方向性を考えてください。  
(この時間で具体化までではできないので、残りは宿題でやってもらいます)

## 高大連携授業（リーダーシップ基礎、12月20日）

12月20日火曜日4限に行われているリーダーシップ基礎の授業に、高大連携として國學院高校の1年生41名、高校生40名が参加した。

第13回の授業のテーマは「ファシリテーションの実践②」。ファシリテーションとは中立的な立場でチームのプロセス（議論の経過）を管理し、チームワークを引き出し、そのチームの成果が最大となるように支援すること。であり、大学生はこの授業の前の週に学んだファシリテーションを今回の高大連携授業で模造紙を使用し、実践していた。

お題に沿って各班自由にアイデア出しをし、出た意見をまとめるというワークで、大学生・高校生問わずグループ内の各メンバーがそれぞれ意見を活発に述べている姿が印象的であった。



今回の高大連携授業では、高校生が参加したことにより、大学生との良い相乗効果が生まれていたと思う。大学生は自分が学んだことを最大限活かせるコミュニケーションを自分なりにとり、高校生は頭の整理方法や大学を肌で感じられる機会になったと感じた。

### 見える化する方法

#### 1. ホワイトボードを活用する

- ・ 議論の進捗や方向が理解しやすい
- ・ 全員の視線が上がるので議論が活発になる
- ・ 文字にすることでお互いの認識のズレを防ぐ

#### 2. フレームワークを活用する

- ・ 議論が整理しやすい
- ・ 脱線しにくい
- ・ 議論すべき内容のモレやダブリを防ぐ

#### 後記（感想）

授業中の大学生と高校生が協力して一つの課題に真摯に楽しそうに取り組んでいる姿が沢山見ることができてお互いに普段とは違う環境下で学ぶということがいい刺激になっていたのではないかと感じた。

大学生・高校生共に、今回の授業で学んだ知識やスキルをぜひ実生活にも活かして欲しい。

（経済学科 2年 富岡姫菜）

## 高大連携ワークショップ（1月14日）

2023年1月14日（土）13:30-16:00に、國學院高校の現2年生を対象に、大学の授業を体験する高大連携ワークショップを國學院高校にて実施した。参加者の現2年生は、これまでも高大連携授業の一環として、「リーダシップ基礎」の授業や「ゼミ」の体験・見学をしており、今回の高大連携ワークショップはその第3弾にあたる。今回のワークショップでは、「大学で学ぶ意味を考える」といったテーマでグループワークを中心とした授業を行った。参加した高校生は10名であった。



このワークショップは対面形式で開催した。3～4人1組のグループワークを主体とし、グループに1名の大学生アシスタントをつけた。高校生は、初めから積極的に意見交換を行い、終始活発なグループワークを築くことができた。アンケートを見ると、「本日のワークショップ参加前よりも、大学で学ぶ意味を考えられるようになった」という設問に、「はい」と回答した高校生の割合が100%となっており、参加者全員が目的を達成できたと考えられる。

問6 本日のワークショップ参加前よりも、大学で学ぶことの意味を考えられるようになりましたか？

10件の回答



- はい
- いいえ
- どちらともいえない

### 後記（感想）

今回は、学生アシスタント全員を國學院高校の卒業生にした。大学生が教壇に立って授業を行う姿に高校生は感銘を受けていたようだった。

今後、このワークショップを機に、國學院大學への進学を希望する國學院高校の生徒が増えることを期待したい。

（経済ネットワーク学科 4年

小西一誠）

## 高大連携活動を振り返って

令和4年度担当教員 中田 有祐

経済学部では、國學院高校との「高大連携授業」を行っています。この取組みでは、単発の模擬授業等ではなく、より長期的に高校生に大学の授業等に参加してもらい、さまざまな角度から大学で学ぶ意義を考えてもらえるような日程・内容構成をとっています。

この取組みの目的は、附属高校と大学との関係を活かした長期の取組みを行うことで、経済学部を志向する國學院高校の学生を増やすとともに、高校、大学、さらには法人全体としてのブランド力強化に繋げることにあります。

高大連携授業は、高校1年次に以下の①へ参加し、さらに2年次に②と③までのイベントへ参加する形で行われます。本年度の実施日程・内容は次のとおりです。

- ① 学部専門科目の授業への参加（対象：高校1年生、令和3年12月）
- ② 専門演習（ゼミ）への参加（対象：高校2年生、令和3年6月）
- ③ まとめのワークショップの開催（対象：高校2年生、令和4年1月）

※例年は、①では「リーダーシップ基礎」の授業に2回参加する形をとっていましたが、本年度は「リーダーシップ基礎」と「ビジネスゲーム」という2種類のアクティブラーニング授業に各1回、参加する形をとりました。

※イベントの詳細は、各イベントの報告書をご参照ください。

本年度においても、各イベントの準備・実施は概ねスムーズに行われ、また参加者に対するアンケート結果も極めて好評でした。高校からもこの取組みを継続したい旨のご要望を頂いており、次年度も引き続き力を入れて取り組んでいくことが望まれます。

次年度に向けた課題としては、①と②・②と③の日程が空きすぎている点が挙げられます。この点について、高校生の進路選択時期の観点からは高校2年次の夏ないし秋頃までに日程を完結させることが望ましく、高校側と調整しながら、日程の改善に努める必要があります。

※専門演習への参加のみ、報告書を別途作成しておりません。概要を以下に記します。

令和4年6月9日から21日にかけて、高校生41名が15ゼミに参加しました。1名につき2ゼミ（経済分野と経営分野1ゼミずつ）に参加する形を取り、ゼミで学ぶ意義、ゼミでの学び方、分野ごとのゼミの内容を体感して頂きました。